

---

# のほほん和幸福

ももぷに

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

のほほん和幸福

### 【コード】

N84990

### 【作者名】

ももぷに

### 【あらすじ】

ささやかな日常に埋もれてしまいそうな、幸せを探してみませんか？

みえていなかったもの

今まで気付かなくてごめんね

ずっと近くにいて

見守っていてくれたのに

ぜんぜん わかってなかった

何も知らないと

知らん顔をするのは簡単なのに

私を支えていてくれた 君

今まで何度も衝突して

ぶつかってきたけれど

そのたびに許してくれた

私 見えているようで

何も見えていなかった

君の優しさ

君のぬくもり

これからもよろしくと

ぺこりと頭を下げた私に

君は 恥ずかしそうにほほ笑んでくれた

この坂を上がれば

君に会えるのかなあ

あと何歩歩いたら  
君に触れられるのかなあ

曲がり角で

君が笑っているのかなあ

君のことばかりで

毎日は過ぎていく

君のことばかりでも

十分幸せな私

私が生きている今は

あまり居心地が良くない

でも ふとした瞬間に幸せが

手のひらにあったりする

悪いことばかりじゃないから

今日少し泣いても

明日は 大きく笑える

たぶん君から見たら

私など 小さな小さな アリかもしれない

何の力もなく

何のとりえもなく

何にもなれない私だけど

たぶん君が思う私は

そんなに弱くないかもしれない

自分の孤独に寒気がして

他の誰かを探そうと思った

街を歩いていても

カフェでコーヒーを飲んでも

誰も私に気付かない

私を知っている誰かは

どこにも存在しないようで

孤独な影は へばりついたままだ

偶然入った店に

私と良く似た君を見た

君は 私と同じ

一人なのだろうか

孤独なのは私だけじゃないのかも  
心が少し楽になった

この次会えたら  
話しかけてみようかな

私と同じ眼をした  
君の存在

孤独は相変わらずつきまとうけど  
世間はそんなに冷たくないのかもしれない

> i 1 3 9 5 6 | 1 9 4 0 <

絶対だなんて言わない

昨日 あれほど泣いたから  
涙は枯れたと思っていた

優しく肩を抱いてくれていた  
君の気持がうれしくて

ごめんね  
意地悪ばかりして

君が大好きなのに  
大嫌いと言ってしまう  
ちょっとひねくれてる私

君が笑ってる  
ただそれだけが  
私の力になる

毎日が普通に過ぎていくこと  
何気ない日常の中にこそ  
幸せがあるのだと  
君が教えてくれた

これから先の人生に  
君という色が加えられ  
古いキャンバスが  
新しく描き出されて行く

一緒にいられば それで

夢を追いかける  
夢を紡ぎだす  
君とともに

忘れてしまわないうちに  
今日の君への感謝を口にしよう

文句は引き出しにしまって  
嫌なことは花瓶に生けてしまおう

幸せは移ろいやすくて  
コーヒーに浸したクッキーみたいだ

忘れてしまわないうちに  
今日の君を記憶に刻もう

一番素敵なあなたが

心にいつもいるように

しっかりと焼きつけて  
色あせないように

君がいるだけで  
ただそれだけで  
それだけで十分です

出会いは不思議というけれど  
結婚はさらに不思議な  
奇跡のようなもの

毎日顔を突き合わせて  
毎日のように同じ話をして  
それでも飽きずに  
毎日好きでいられる

親よりも  
一緒にいる時が

長くなるなんて変な気持

生まれた時は

あなたのことなんて

まったく知らなかった

私で良かったのかなんて

疑いたくなる日もあるけれど

選んでくれてありがとう

結婚は毎日が 奇跡の連続なのです

# 絶対に君を泣かせたりしない

絶対に君を好きでい続ける

絶対に君に嘘をつかない

絶対に 絶対に

気付けば

絶対にばかり言い過ぎて

自分を縛り過ぎたかな？

絶対に 絶対なんて

もう絶対に言わない

> 113955 | 1940 <

## 当たり前前の生活

どこにでもあるような

ごくごく普通の生活の中にこそ

幸せはあるのだと

あなたが教えてくれた

毎日がパーティーのようで

喧噪の日々に身を置いているのは

幸せから遠いのかもしれないと

ジェットコースターに乗せられて

すっ飛んで行く生活を

長く続けてきた私

立ち止まって自分を考えてみれば

走り過ぎて疲れてしまっていたようだ

ここらへんで休息をいれて

ひと休みをしてみると

あなたの言葉の意味が

なんとなくわかったような気がした

・  
・  
・  
・  
・  
・

朝起きて コーヒーを淹れる

一つじゃなくて 二つ淹れる

あなたの分と私の分  
二つのコーヒーを淹れる

少し前まで

一人だけの朝食をとっていたのに

悲しいことは 半分に

楽しいことは 二倍に

そして 頭が二つあるから

知恵は二倍になる

・  
・  
・  
・  
・  
・

呪縛をとりて たどりついた

あなたが見ている空 私にも見える

扉を突き破り通り抜けた先に

待っていた日常

初めから こうだった

ねじれていたのは 私だけだった

何ひとつ

変わっていない

やっと 戻れた この素晴らしき

日常に

・  
・  
・  
・  
・

毎日 毎日の生活に追われていて  
見失いがちな幸せを 見つけれたらいいな

ベランダの花が咲きました  
つぼみすら持たず もう咲くことなどないだろうと、  
あきらめていました 花です

ひよっこりと咲いた小さな花  
花を見ていて思いました

花は 花の役割を果たしています  
私は 私としての役割を果たしているのだろうか？

可憐な花を見て 考えてしまいました

私はちゃんと私でいるように  
私が私でいるために  
努力だけは していこうと思っているのですが

> i 1 3 9 3 3 | 1 9 4 0 <



私にレツテルを貼らないで

空を見る

君が望んだ空は  
この鉄格子の向こうに  
あるのだろうか

ここから見える空は  
切り取られた天国へと  
続くように  
思われるのだけど

同じことの繰り返し  
いつだって君は  
懲りてないと  
嘘をつく

君の夢見た空は  
この鉄格子の向こうで  
君を待っているのだろうか

自分の力では  
どうにもならない  
無力さを  
与えられたことに  
喜びを感じている

スピードをつけて

ジャンプ  
ジャンプ  
弾みをつけて  
ジャンプ

あと もう少しの辛抱  
もう少しが 長すぎる

耐えがたい未来  
逃げ出したい現在  
消したい過去

薄ぼんやりとした記憶は  
どうしようもなく  
切ないほどに  
君の顔を隠す

死ぬこともできず  
生きていくこともできず  
所在ない 私

ぼとり ぼとりと  
落ちていく雫が  
命をつないでいる

罪の償いにしては  
あまりにも冷たい  
生まれる前から

定められた運命だとしたら

それは…

言いたいことが全部言えたら

私のことを全部わかってもらえたら

夢が全部叶ったら

きつと面白くなくなつて

詩を書こうだなんて

思わなくなる

君の涙

心の傷に触れたから

気持ちの奥深いところで

みんなが つながっている気がした

しよせん 人は一人なのに

だから

君は 涙

何かを伝えたくて

誰かを愛したくて  
哀しい女だと  
思われていたくない

暗闇の中でだって  
歌うことは できる  
君に会えなくなっても  
好きで いつづけられる  
何の望みが無かったって  
未来は やってくる  
誰にも教わらなくても  
泣くことが出来るように

悲しみに 押しつぶされても  
涙すら出ない夜がある

私の弱さを  
君は笑う

甘くとろけるような時間  
君と二人で分け合った  
この世が天国で  
永遠の樂園だと  
信じていたのに

今日一日の行動  
言ったこと  
やったことで  
誰かが 泣いていませんように

私にレツテルを貼らないで  
心の奥底にいる 私を探す旅に出る  
いるはずなのに 見つからない  
私の旅は続く

私を見失ってから もう だいぶ経つ

気持ち吐き出そうとしても  
本当の心がわからない  
それは 本心ですか？  
わからない わからない

窮屈な箱の中で もがいている  
終わりのない旅なのか  
このまま 朽ち果てていくのか  
それとも 夢 光 希望  
いつか見えてくるのか

たぶん このまま  
何も変わらずに  
そう 落ちていくのだろう  
底の底の底  
救いの手すら差し伸べられないような  
暗闇の中へ  
確実に近付いているようで

孤独に寒気がして 嘆いてみたところで  
状況は変わらない  
時間がゆっくり過ぎていき  
焦る気持ちばかりが 上滑りしている

そんな 私に処方された  
「あきらめない」という名の特効薬  
私が 見つかるのか 賭けに出してみた

最初は ひたすら眠り姫  
そのうちむくくと起きだして

キヨロキヨロきよろつと見渡してみれば  
いたいた私  
丸まってしおれていたけど  
確かに私

「私はどこへもいかずここにいたんだよ  
ずっとずっとここにいたんだよ  
そういつだって私は私を待っていたんだよ  
おかえり」

私が私に帰っていく  
私は私を取り戻す

だから私にレッテルを貼らないで  
色眼鏡で見ないで  
私を見失ってただけなのだから

> i 1 4 1 0 1 | 1 9 4 0 <

## 君が大好き

### 出発

暮らしの隅っこで  
縮こまり  
かすんでた幸せ  
黙り込んで  
コーヒーに入れた  
甘い君の言葉  
純粋なままで  
干からびていった  
幻だったのだろうか

崩すなら 今すぐ  
ドアの鍵は 開いている  
このまま 飛び出して  
遠い 遠い世界へ

立ち止まり考える  
じっと ずっと考える

新しく始めるより  
今のこの瞬間を  
未来へとつなげてみたい  
やっと 築いた  
今を上へと登っていきたい

ふっと 気づいた  
私 結構うまくいっている

大丈夫

いつか見つかると思っていた  
私の居場所

泣くことに疲れて  
もうどうにもならないと  
あきらめの日々の中で

そこはお金で買えず  
一人ひとり皆違う

私が いてもいいのだと思わせてくれる  
存在を認めてくれる場所

どこにでもあるような  
特別な場所じゃないけれど  
なかなか見つからないから  
あるかどうか わからなかった

そこは 手に入りそう  
たやすくは 気づかない  
でも 私のすべての  
存在を許してくれる場所

壊されないように  
壊さないように  
あたためて

ゆっくりと  
守っていききたい

見つけられたら  
それだけで安心できる  
見つけたよ  
私だけの

あなたにも  
見つかるといいな

眠れない夜には

心配がうずをまいて  
眠れない夜  
朝になれば  
すべて流してくれる

不安につつかれて  
眠れない夜  
夢でも見れば  
すべて隠してくれる

叫びたいくらいの  
孤独にとりつかれる  
「私は ここにいる」  
あなたの目に

私は 映りますか？

どこまでも

おちていって

ストーンと抜けたとき

そこに希望は 待っている

明日

沈み込んでいる時は

すべてを恨んで

くよくよ くよくよ

ささいなことさえ

最悪に感じてしまう

もう 立ち直れないと

涙・涙・涙…

気分が上を向いてくると

悩みも忘れて

ささいなことなど

どうでもいいと

石につまづいたって

笑い飛ばせるくらい

いやな気持ちを

まとめて袋に入れて

ごみの日に出せたら

すつきりするのに

自分がだめだと考えたら

とりあえず立ち止まり

大きく深呼吸

頭のスイッチを切り替えて

また 明日につなげたい

## 道

誰かに聞いたアドバイス

あわないかなと思ってた

とりあえず

受け入れてみたら

道が開いていった

私のために

時間を使って

一緒になって考えてくれた

いろんな いろんな人達

裏切ってばかりで

ずいぶん傷つけてきた

私のために

せいっぱい

がんばって

何とか良い方向へ  
向くようにしてくれた  
多くの 多くの人達  
期待にそえず  
がっかりさせてきた

これから先も  
生きていこうと思うので  
それが 恩返しのもりです  
そしてこれからは  
アドバイスも  
ちよつとは 聞きます  
それで道が開けば  
あなたにも  
うれしい報告が  
できる

## 大人

あなたの優しさに  
甘えてばかりいる  
もっとしっかりしなきゃ  
そう思っても 空回り

「今のままでいいよ」  
あなたが そう言ってくれるから

また 甘えてしまう

ゆっくり 時間をかけて  
大人になっていくから  
見守っていてね

### 君が大好き

きらきら きらきら  
見ているだけじゃ もったいない  
くるくる くるくる  
独り占めじゃ うらまれそうな

あなたがくれた 言葉達  
赤いリボンで包まれた  
わくわくする 贈り物  
いつ開けようか 悩んでいるうちに  
滑り落ちて消えてしまった

あなたが何を言いたかったのか  
私の頭が足りないのか  
理解できずにいたせいだ

枯れかけのパンジーに  
話しかける

「まだ 間に合うかな」

きらきら きらきら

つかまえたらぎゅっ

くるくる くるくる

明日こそ 言おう

> i 14099 | 1940 <

## 未来

あせり

あせっている時は  
ほんのちよつと  
がまんすれば  
状況が変わる

あせるのは  
心が動きたいと  
言い始めていても  
体が動けないと  
信号を出しているから

ゆっくり休んで  
お茶でも飲めば  
どうすればいいか  
なんとなく見えてくる

あせって動いても  
良い結果は 生まれないから  
待って 待って 待ちすぎて  
もう手遅れと感じても  
始めるのに  
遅すぎることはない

思っていること

私は 思う

人生は 必要な時に

必要な形で

必要なものが

もたらされるのだと

うまくいかなくて

あきらめかけても

それは 今

うまくいかないほうが

いいというだけのこと

うまくいき始めたら

面白いように

トン トン トンと

進んでいく

あとで考えてみると

これでよかったんだと

思えるような ことばかり

傷つかない方法

誰かの一言で

深く傷ついて

泣く前に

このシチュエーションだったら

こんなひどいことを言われると

いつも最悪のことを考えておく

そうすれば 少しは傷つかないですむ

いつも最悪のことを

考えていれば

多少のことでは

落ち込まない

良い結果になれば

喜びもまましていく

最悪のことを考える

それが 私のやり方

私

誰かと比べて

自分を考えるのは

心がすりきれてしまいそう

私は 私

人は 人

わりきってみる

誰かがこうだから  
自分もそうしなければ  
そればかりだと  
自分を見失ってしまおう

私なりのやり方  
私なりの生き方  
あなたとは違う  
当たり前のこと

自分を突き通すことも  
時には大切  
我ばかり強くなったら  
どこかでへこまされる

自分をしっかりと持って  
私は 私  
他の誰にも なれないから

### 寒い日

君と一緒に  
海を見に行った

君の不器用に大きい手  
所在無い私の手を  
しっかりと握りしめている

笑う人は誰もいない  
馬鹿にする人もいない  
二人で歩いていけば  
すべて大丈夫

途中の公園で  
タバコ休憩  
即席カメラマンの君  
また思い出が  
一つ増えた

海に着いたら  
あつたかいジューズ買えば  
すこしあつたまれる

街行く人は  
せかせか歩いてる  
休日のオフィス街

失くしたと思つて  
あきらめていた  
宝箱の鍵  
君のポケットで  
出番をずっと待ってた

未  
来

あなたの洗濯物を  
たたんでいて ふと 思う  
私結婚できたんだって

あなたといられる幸せ  
今の暮らしの不思議さ  
私なりに がんばっている

生きている実感を失くして  
人並みの人生を  
あきらめていた

ささやかな発見が  
私を少し強くする  
毎日を同じように過ごす  
大切さを あなたに  
教えられる

あなたがいてくれるから  
この日常に足を踏み出せる  
2人でぶきつちよに  
積み重ねてきた  
この生活に感謝を  
そして これから先も  
ずっと ずっと一緒に  
いたいと 願っているから

ありがとう  
大好きだよ  
10年後も 20年後も

あなたの隣で  
笑っていたいな

> i 1 4 0 9 8  
— 1 9 4 0  
<

## 孤独

ちっぽけな自分に 悲しくなって  
自分の孤独さに 寒気がした

愛してるなんて  
恥ずかしくて言えないから  
大嫌いと  
言っちゃった

夢見がちな少女は 口にする  
「ここじゃない どこか  
遠いところへ行きたい」  
だけど ポケットの中には  
25セント硬貨が 一枚あるだけ  
そして  
「ここじゃない どこか  
遠いところ」を求めて ここに  
やってきた 人々に気付かない

新しい何かを始めるためには  
切り捨てなくてはいけない

さよなら 思い出  
ありがとう 出会い  
すべて すべてが  
過去になって消えていく

1・2・3 3つ数えて  
もう ここには 戻れない

新しいドアを 開けるために  
新しい物語を つづるために

さよなら恋人  
さよなら さよなら  
過去となって消えた  
蛇口のしずくみたいに

1・2・3 3つ数える間に  
違う道を 歩くのだ

後悔という言葉は  
枯葉と一緒に  
焼いてしまおう

とりあえず今は  
前だけを見つめよう

もう戻れない

雨はいつまで降るのか  
天を恨んでも  
始まらない

今日 泣きたいくらい  
嫌なことがあっても  
明日の今は  
笑ってる きっと

自分はだめな人間だと  
自分で自分を責め続けた  
「どうせ私なんか」と  
泣いていた あの時  
自分を好きになりたい  
自分自身を愛してあげたい  
傷ついた心を  
ぎゅっと抱きしめて  
もういじめないからと  
自分自身に 言い聞かせたい  
自分を救えるのは  
他の誰でもない  
自分だけなのだから

> i 1 4 1 0 2 — 1 9 4 <

## アナザーオブエデン

脱却

呪縛をといて  
たどりついた

あなたが見ている空  
私にも見える

扉を突き破り  
通り抜けた先に  
待っていた日常

初めから こうだった  
ねじれていたのは  
私だけだった

何ひとつ  
変わっていない  
やっと 戻れた  
この素晴らしき  
日常に

私の心が

あなたの届いたら  
賞味期限の切れないうちに  
早めにお召し上がりください

カビのように見えますが  
商品が擦り切れて  
付着したものです  
製品には 何の  
問題もありません

一度に 多量に取ると  
涙腺がゆるく  
なることがあります

## アナザー オブ エデン

ゆつくりと時を刻む だめならだめと笑って  
注いだアップルティーが 原罪を思わせる

君が喜ぶのなら 何だっでするよ  
君が幸せになるのなら ピエロにもなるう

のんびりとした時間が とりとめのないおしゃべりと  
エンドレスな空想に ほんのちよっぴりほほ笑む

ささやきかけた君の言葉を のみこんだまま突然の沈黙  
君が眠れるよう この闇をカーテンにして

疲れ切った君を包み込んであげたい

ただ 過ぎていく時が 二人の秘密をあばいていく  
たぶん ずっと そうだった  
二人は いつでも 空を見上げる

> i 1 3 9 3 6 — 1 9 4 0 <

悲しいほどに晴れた空（前書き）

いつもの詩と少し毛色を変えて、ちょっぴり面白く？（書いてみました。

悲しいほどに晴れた空

昨日 彼女に振られた

それなのに

空のバカは 青空

僕が泣いているのも知らず

この頃ずっと晴天続き

なんで僕だけ不幸なんだ

リングもプレゼントした

ぬいぐるみもあげた

君が欲しがっていた

ワンピースだって買ってあげた

それなのに

「もう 会わない」

ってなんだよ

理由を聞いても

教えてくれない

かわいい君が好きだった

ちよっぴり微笑んではにかむ

その顔が好きだった

もう あんない子は

現れることなんてないだろう

僕は 君にとって  
何だったのだろうか

君は 僕にとって  
よく出るパチンコ台  
いつだって ラッキーだった

それなのに 君は  
「あなたは、魚の骨みたいね」  
どういう意味だったんだろう

君が 心配だったから  
部屋に盗聴器をしかけたのが  
いけなかったのだろうか

それとも 君が寂しくないように  
1日中 メールを送り続けたのが  
いけなかったのだろうか

ああ 僕にはわからない

君が お腹をすかせていないか  
本当に心配だったんだ  
だから お寿司を5人前頼んで  
君の家に デリバリーしてもらったんだよ

僕からだって ばれないように  
料金は 君持ちだけど  
もちろん 贅沢好きな君のために

特上を頼んでおいたよ

こんなに気がきく僕なのに  
僕が 嫌いになるなんて

君に無断で

君の両親にあいさつへ  
行ったこともあつたっけ

だって どうせ

結婚するつもりだったから  
先にあいさつをしておこうと  
思っただよ

それに 君の両親に黙って  
君と付き合うわけには  
いかないと思つてさ

それなのに 君は  
「今度 なんかやつたら  
警察に行く」

どういう意味なんだろう

さっき 君に贈ったものが  
宅配で届いたよ

中には 君からの  
メッセージが書かれてた

「2度と現れるな!!」

どういう意味なんだろう

僕には わからない

君が 去って行った理由

しょうがない

また 次を探すしかないか

今度こそ 次こそ

もっと いい子を探してやる

そう 僕の名前は 疫病神

疫病神だって 恋したっていいじゃないか

一応 神様の仲間だし

君は 素敵な自縛霊

余計なことするなって

さんざん言われたけど

すべては 君のためだった

悲しいほどの青空が

恋の終わりを告げている

涙が乾くその時まで

僕は 再び 恋をするはずなのだから

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8499o/>

---

のほほん和幸福

2011年10月8日05時33分発行